令和５年度 紫原小学校「学校だより」（NO.5）

つくしんぼ

教育目標　夢と希望を持ち「自立」した紫原の子供を育てる
～あいさつ・掃除が確実にできる子供の育成～

発行日　　令和５年９月21日
Tel 251－1323　http://keinet.com/murasas　発行責任者　校長　川畑 敏彦

読書の秋～本を読むということ～

校長　川畑　敏彦

毎朝，校門の前で子供たちに挨拶をすると，元気よく挨拶を返してくれる子供，恥ずかしそうに小さな声であいさつする子供，声は出なくても目と会釈であいさつを返してくれる子供と様々です。それぞれの子供に朝のドラマがあるのだろうなと思うことです。

本校では，朝の活動で15分間「朝読書」の時間があります。その時間は，本好きな子供たちを育てるだけではなく，子供たちが持つ苦悩や悲しみ，葛藤などを癒してくれる，そして勇気や希望を与えてくれる大切な時間だと捉えています。

そんな大切な時間を支えてくれるのが，学校の図書室です。この夏休みに図書室が大きく変わりました。

皆さんは，図書室にはどんな思い出がありますか？また，どんな場所を思い浮かべるでしょうか？図書室には，様々な分野の本が置いてあり，本が好きな子供たちが昼休みに行く場所。授業の中で，調べ学習ができる場所，ゆっくり落ち着いて，好きな本が読める場所・・・など様々だと思います。

これからの図書室は，本好きの子供たちが昼休みに好きな本を読んだり，借りたりするだけでなく，すべての子供がワクワク・ドキドキできる場所，ゆっくりくつろげる場所，昼休みに行ってみようと思える場所，子供たち自身が「本で調べて報告書を書く＝調べ学習」など，『知の探究』ができる場所にならなければなりません。

『子供のうちに身についた読書習慣は，その子供の生涯に豊かさを与える。』と言われます。本は「その著者のフィルターを持ちたい。」と思って読むものです。そうしながら，子供たちは成長とともに自分なりのフィルターを確立していくのです。

誰に好かれようが，嫌われようがそのようなことには左右されずに，自分で自分の人生を主体的に生きていく・・・。読書をすることで，そう思える力が養われていきます。その主体性こそが，これからの子供たちに必要とされる「主体的に学ぶ力」＝『自立』につながっていくのだと考えます。だから，図書室は大切な場所なのです。

「好きな本」を読むだけでなく，授業で勉強したことが進化・発展された類似図書が図書室に展示されている・・・。社会科や理科，音楽科や体育科などの教科学習のなかでも「本で調べて報告書を書く」という「調べ学習」ができる場所が図書室なのです。

本は，著者が明示され，出版社が責任をもって編集した情報です。それに対して，インターネットは誰が書いたかわからない保証のないものです。インターネットに頼るあまり，大学生や社会人になった時，「ウィキペディア丸写しのレポートしか書けない。」というようなことにならないように，小学生のうちから本で調べて報告書が作成できるようになる。そんな力も子供たちがこれから身につけるべき力の一つだと考えます。

そんな場所になるように，これからの図書室は変わっていく必要があります。本校は今年，日本教育公務員弘済会の「読書活動の啓発・推進事業」を受け，子供たちの図書購入費として20万円いただきました。それを受け，先日6年生の子供たちが選書会を実施し，今後「ビブリオバトル」等の活動も計画しています。

子供たちがワクワク・ドキドキしながら，ゆっくりくつろげる場所・・・。そんな図書室で本好きな子供たちがいっぱいになることを願っています。